

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 11 月 26 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (11/26 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h	23.8	104.3 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m <sup>3</sup> /h	32.6	8.70 kPa g	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m <sup>3</sup> /h	31.9	0.23 kPa g	A系： 0.09 vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.07 vol%

\*1:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・11/12～12/9(予定) 1号機原子炉压力容器への窒素封入が停止した際に、予備として原子炉格納容器へ窒素封入を維持するため、O<sub>2</sub>サンプリングラインを用いて、段階的に流量を変更する試験を実施中。

・11/26 10:13～10:31 [各窒素封入量を試験前の値に戻し]

原子炉压力容器(RPV)窒素封入量 :11m<sup>3</sup>/h → 30m<sup>3</sup>/h

サブプレッションチェンバ(S/C)窒素封入量: 0m<sup>3</sup>/h → 5m<sup>3</sup>/h

原子炉格納容器(PCV)窒素封入量 :19m<sup>3</sup>/h → 0m<sup>3</sup>/h

原子炉格納容器(PCV)ガス管理システム排気流量:21m<sup>3</sup>/h(変更なし)

今後、1週間程度プラントパラメータの監視強化を実施予定。

・H25/11/26～ 4号機原子炉建屋の健全性確認のための点検(平成 25 年度3回目(計7回目))を実施中。

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (11/26 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	17.5
2号機	循環冷却システム	運転中	15.9
3号機	循環冷却システム	運転中	15.2
4号機	循環冷却システム	運転中	23.6

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

・H25/11/18 15:18～ 4号機使用済燃料プールから燃料を取り出す作業を実施中。なお、同作業は平成 26 年末頃まで行う予定。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	11/22 9:44～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋 [高温焼却炉建屋])	11/6 9:27～ 移送実施中

## < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (11/26 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	A系・B系・C系 ホット試験中*2

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

- \*2 当面は、3系列のうち2系列による運転を実施することで2系列運転の稼働率を向上させていくこととし、準備が整い次第、3系列の同時運転を実施予定。なお、B系については、本年12月下旬頃(予定)に腐食対策有効性確認のため、処理運転を停止予定。
- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

## <5. その他>

- ・H25/10/21 13:50～ 6号機において、燃料集合体を原子炉内から使用済燃料プールへ移動させる作業を実施中。
- ・H25/11/23 3:57頃 1～3号機の原子炉圧力容器および原子炉格納容器へ窒素を封入している窒素ガス分離装置2台(A・B)が運転中のところ、「ドライヤ異常過電流またはドライヤ高圧カット」の警報が発生し、窒素ガス分離装置1台(A)が停止。もう1台の窒素ガス分離装置(B)は運転を継続しており、原子炉格納容器および原子炉圧力容器内への窒素供給は継続中。また、プラントデータ(原子炉格納容器内水素濃度・原子炉格納容器内温度等)、モニタリングポストの値に有意な変動は確認されていない。待機中の窒素ガス分離装置(C)については、同日17:03に起動し、同日17:12に窒素ガス分離装置2台(B・C)による窒素供給を開始。起動後の運転状態に異常はない。今後、窒素ガス分離装置(A)の停止原因について調査する。
- ・H25/11/26～ 高濃度汚染水が滞留している建屋に接続するトレンチについて、年1回の点検を実施。
- ・H25/11/26～ 11/5に発生したえい航船のスクルーに巻き込まれたシルトフェンスの復旧作業を実施。
- ・H25/11/26 0:39頃 3号機タービン建屋海側にある海水配管トレンチ内の滞留水の放射能濃度を低減するモバイル式処理装置の漏えい検知器が動作し、ポンプが停止。現場確認を行った結果、検知器が設置してあるドレンパン内の検知弁のみに水たまりを確認。当該装置からの漏えいは確認されず、検知弁にたまった水をサンプリングした結果、検出限界値未満であったことから、養生シートのすき間から入った雨水と判断。  
<分析結果>
  - ・セシウム134: 検出限界値未満(検出限界値:430 Bq/L)
  - ・セシウム137: 検出限界値未満(検出限界値:650 Bq/L)**その後、雨水養生の見直しを実施し、同日13:20にモバイル式処理装置を再起動。**
- ・H25/11/26 6:46頃 当所電源設備において「南側66kV所内変圧器2B GIS\*1異常」の警報が発生し、同時刻に当該警報は自動復帰した。事象発生当時、所内電源系に異常は確認されなかったが、その後の現場調査において、開閉所補助建屋に設置されている当該GIS用のインターフェース盤\*2内に、小動物が侵入したと思われる痕跡(小動物の糞と思われるもの)を発見。また、当該インターフェース盤内に約1cm×約1cmの隙間が確認されたことから、隙間を塞ぐ処置を実施。  
当該インターフェース盤は、H25/3/18に発生した「福島第一原子力発電所1～4号機所内電源系の停電事故」の再発防止対策(ケーブル貫通箇所の開口部等を閉止する等の電源盤への小動物侵入防止対策)を行っていたが、今回、小動物が侵入したと思われる痕跡が確認されたことから、今後、他の所内電源盤についても小動物侵入の痕跡の有無を確認するとともに、他の侵入箇所がないか確認を実施する。なお、警報発生について、他の原因も含め引き続き調査する。  
※1 ガス絶縁開閉装置(開閉所の66kV特別高圧側に使用)  
※2 現場の制御盤の情報を集約し開閉所システムに伝送するための中継盤

## **【H4エアータンク等からの水の漏えい関連】**

### <トピックス>

- ・11/26 11:03 H4エアータンクからの水の漏えいに伴う汚染の拡散防止策としてH4-No.5 タンクの北東側に設置したウェルポイント(5本)から地下水の汲上げを開始。汲み上げた水は、一旦、仮タンク(ノッチタック・水タンク)に貯留し、その後4,000t ノッチタンク群へ移送する。
- ・11/26 15:39 11/26に実施した汚染水タンクのパトロールにおいて、H9エリアの堰ドレン弁(H9-B1タンクの南側)より、堰内の溜まり水が滴下(1滴/秒程度)していることを確認したとの連絡が免震重要棟に入ったことから、現場状況等を確認中。

### <タンクエリアパトロール実績(11/25)>

- ・高線量当量率箇所( $\beta + \gamma$ 線(70 $\mu$ m線量当量率))は確認されず。
- ・堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(漏えい確認が出来ていない堰内溜まり水内を除く)を確認。
- ・サーモグラフィによる水位確認(11/24撮影分の分析結果)により、タンク水位に異常がないことを確認。

### <H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・H4エリア周辺の地下水観測孔の測定結果(11/25採取分)において、今回初めて測定した観測孔E-9の全ベータは380 Bq/Lであることを確認。その他の測定結果については、前回と比較して有意な変動なし。

### <福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・11/25採取分の測定結果について、前回と比較して有意な変動なし。

**【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】**

<トピックス>

- ・1・2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は11/26 0:00 時点で約 5,974m<sup>3</sup>  
\* 集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取分の測定結果と比較して有意な変動なし。

**【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】**

<トピックス>

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。(有意な変動なし)
- ・H25/10/3～ 地下貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。
- ・H25/10/23～ 地下貯水槽 No.6 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/11/15～ 地下貯水槽 No.5 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/11/19～ 地下貯水槽 No.1 において浮き上がり対策を実施中。

以上